

# 広州日本人学校の特色ある教育活動

前広州日本人学校教諭

宮城県富谷市立あけの平小学校教諭 馬場 ひとみ

キーワード：在外教育施設、中国、広州、国際理解、国際交流

## 1. はじめに

日本の約半分の 18 万 km<sup>2</sup>ある広東省の省都である広州は、華南最大の都市であり、高層ビルが立ち並び、日系企業の多くが事務所を構える。また、年平均気温は 20℃を越す温暖な気候で、年間降雨量は 1600mm を超え、1 年中雨量が潤沢のため植物の成長に適しており、四季を通じて花や緑があふれる花の街である。

広州日本人学校で過ごした 3 年間は、驚きや試行錯誤の日々であり、貴重な体験となった。令和元年度に創立 25 周年目を迎え、児童生徒は平成 31 年 4 月 11 日現在 449 名で過去最高の人数となっている。

広州日本人学校の特色ある教育活動を紹介し、在外教育施設の実態や魅力を伝えたい。

## 2. 広州日本人学校の特色

### (1) 国際理解教育の推進

#### ①国際交流教育における目標

異文化を尊重しながら、全ての人々と共に協力し、考え、判断し、行動する児童生徒

- 互いに尊重し、相手の立場に立って考える態度や心情の育成。
- 相手の立場を尊重しつつ、自分の考えや思想を表現できる能力の育成。
- 広い視野をもち、自他の文化を理解し、尊重する態度の育成。
- 国際社会において連携・協力する態度の育成。

#### ②外国語活動（英会話）の充実

平成 29 年度、小学校高学年では年間 35 時間の外国語活動の時間が設けられていた。本校では高学年は週に 3 回の英会話の授業があり、3 つのクラスに分かれ、習熟度別授業が実施されている。FET (Foreign English Teacher) と日本人の教員が TT で指導しており、小学校低学年と中学年は週に 2 回授業が設けられている。なお、中学生は週に 5 回英語の学習を行っている。小学校低学年から実用英語技能検定を受験する児童もあり、家庭学習でも英語の勉強に励んでいる。

#### ③中国語の授業

小学 1 年生から、テキストを使用して、挨拶やスポーツ、教科、食べ物など日常生活に必要な単語を学んでいる。クラスは中級、初級の 2 つに分けられている。授業では、中国の遊びを体験したり会話の練習をしたりしている。個人的に中国語教室に通い、中国語の学習をしている児童生徒もいる。

#### ④ 現地の学校との交流

【中学部】 私立華レン大学との交流

- 日本語を学習している大学生との交流を通して、中国の文化・伝統や考え方を知ったり、自国の文化・伝統に誇りをもったりして、共に生きていこうとする態度を育む。
- 両国の伝統的な文化やスポーツを通して、自ら進んで外国語を用い、日常会話や簡単な情報交換などのコミュニケーション能力を高める。
- 相手の立場に立って考える態度や、自分の考えを積極的に表現しようとする態度を養う。

以上の3つをねらいとして交流を行った。

・第1回目・・・訪問交流

グループに分かれて折り紙、爆弾（花）ゲーム、星づくり、華容道（箱入り娘パズルのようなゲーム）、獅子舞の楽器体験（銅鑼、太鼓）を行った。

・第2回目・・・招待交流

中国語のみ、日本語のみで会話をする時間をつくり、名刺交換や自己紹介を行った。その後、百人一首や福笑い、すごろく、凧作り等を行い、最後に中学部全員で合奏を披露した。

【小学部】 東風東路小学との交流

○日本人学校のことや遊びなどの日本文化を紹介しながら交流する。

○言葉やジェスチャー等で遊んでコミュニケーションを図る。

○中国の子どもたちと、楽しく遊ぶ。

以上の3つをねらいとして交流を行った。

・第1回目・・・招待交流

1年生：折り紙・福笑い・すごろく

2年生：日本の遊び（折り紙・こま・けん玉・お手玉）

3年生：よさこいソーランを一緒に踊る

4年生：体ほぐしゲーム

5年生：だるまさんが転んだ・あやとり・折り紙・じゃんけん列車

6年生：インタビューゲーム

学年ごとに内容を考えて活動を行った。今年度は全学年、「你好」「謝謝」「再見」を活動の中で話せるように指導した。また、中学年は名刺交換を取り入れる、高学年は会話を取り入れるなど、発達段階に応じて活動内容も異なるものとした。各学年、楽しく活動することができた。

担任していた小学部5年生は、活動の前に日本人学校の1日の様子を紹介したり自己紹介をしたりした。あらかじめ質問を考え、メモを取りながら東風東路小学の児童の話の聞くことができた。東風東路小学の児童も、使用している教科書や教室の掲示物、宿題に興味をもち、たくさん質問してくれた。

・第2回目・・・訪問交流

小学部5年生はレクリエーションをしたり、広州の歴史を学び、絵葉書に色を塗ったりする活動を行った。学習した中国語や英語を使って会話をしたり、東風東路小学の様子を知ることができたりして、有意義な交流会になった。

⑤運動会でのカンフー

中学部は運動会の団体・表現種目でカンフーを踊っている。踊りの中で、扇・刀・棒の3つのチームに分かれて演技を行う。各チームの中学3年生がリーダーとなり、後輩に演技を教え、技を磨いていた。指導する教員も、カンフーの先生に指導してもらい、技を教えてもらっている。



現地校との交流の様子



運動会のカンフーの様子

## (2) 小中一貫校

### ①指導者の交流

平成29年度は中学部社会科教諭が小学部6年生に、中学部英語科教諭が小学部4～6年生に、中学部美術科教諭が小学部4～6年生に授業を行うなど小中の枠を超えて指導を行った。平成30年度、令和元年度も小中学校の教諭が校種の枠を超えて指導を行った。さらに、小学校1年生から専科の授業があり、担任のみならず複数の教員が子どもたちと関わり、様々な視点で児童生徒を見ることができた。

### ②児童生徒の交流

週に1回、昼休みの時間を利用して、縦割り活動を行った。6年生がリーダー、5年生がサブリーダーとなり、下学年と一緒に遊びながら交流を図った。また、月に1度は中学部の生徒が縦割り班に加わり、アドバイザーとして6年生に「指示を出すときはもっと大きな声を出してね」、「ルールをしっかり決めるといいよ」などとアドバイスを送り、活動をよりよいものにしようとする姿が見られた。委員会活動や運動会、学習発表会でも中学部と一緒に活動することができ、小学部の児童にとっては良い刺激になっている。しかし、小学部高学年の児童のリーダー性を伸ばすことや、最高学年としての自覚をもたせることが難しいと感じた。

## (3) 校外学習と職場体験

### 【小学部】

国内と同じように、中国・広州でも校外学習に行けるということが分かった。施設との連絡調整には学校の事務職員と一緒に対応してもらい、細かいところまで話し合うことができ、当日もスムーズに活動することができた。

小学校1年生・2年生…平成29年度・水族館／平成30年度・動物園

3年生…明治アイス工場、AEON

4年生…白雲山

5年生（宿泊学習）…中山 1泊2日

孫故居記念館、キリンビール工場見学、農園でフルーツ狩り、菊のクッキーづくり

（国内の林間学校や自然の家での活動とは異なるが、中国革命の父・孫文について学んだり工場の仕組みについて学んだりすることができた）

6年生（修学旅行）…西安 2泊3日

（飛行機で西安へ行き、兵馬俑の見学などを行う）

### 【中学部】 職場体験

JAL や吉野家など日系の企業を訪問して体験的に学ぶことができた。

## 3. おわりに

3年間指導に当たりながら、現地校との交流や外国語活動の充実が魅力的であると感じた。海外にいるからこそできることもあれば制約されてしまうこともある。児童生徒には、広州でしかできない経験、広州だからこそできる経験をたくさん積み重ねさせたいと思い指導に当たったが、私自身も外に出なければ味わうことができない体験がたくさんできた。

帰国時は新型コロナウイルス感染症が流行し、現在は私が過ごした学校の様子とは変わってしまったが、早く収束し、また以前の学校のように多くの児童生徒の笑顔あふれる学校に戻ることを願っている。

広州で学んだことを、これからの指導に生かすとともに、担任する子どもたちにも、自分の経験を伝えていきたい。